

全苗連だより

Vol. 51 (10月号)

平成30年10月15日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

第4回全苗連生産者の集い 岡山で盛大に開催されました

晴れの国おかやまにて43名が表彰されました

『第4回 全苗連生産者の集い』が9月6日(木)から7日(金)の二日間、岡山県岡山市をメイン会場に盛大に開催されました。

開催に当たり、ご尽力いただいた皆様に感謝申し上げ、その内容を次のとおり報告いたします。

【生産者の集い】(初日の9月6日開催)

岡山県岡山市北区駅元町にある「岡山コンベンションセンター」に368名が集いました。難波芳英岡山県山林種苗協同組合理事長が開会のことばを述べ、主催者を代表して岸紘治全苗連会長による挨拶、伊原木隆太岡山県知事並びに大森雅夫岡山市長の歓迎の挨拶に続き、ご来賓を代表して矢野彰宏林野庁森林整備部整備課長(牧元幸司林野庁長官は早朝に発生した北海道地震対応のため出張取止め)並びに村松二郎全国森林組合連合会会長から祝辞を受けました。



岸紘治全苗連会長主催者挨拶



矢野彰宏林野庁森林整備部整備課長の祝辞

続いて、全国山林苗畑品評会・山林種苗等生産事業功労者・永年勤続常勤役職員の表彰が行われ、43名の方が表彰されました(表彰者名は[別添1]参照)。受賞者を代表して、全国山林苗畑品評会で農林水産大臣賞を受賞された岡山県苫田郡鏡野町在住の小林由隆さんが謝辞を述べました。

表彰式のあとは、講演並びに岡山県の生産者3名による生産者状況報告が行われました。講演は、「少花粉品種の定着について」の演題で岡山県農林水産総合センター森林研究所林業研究室特別研究員の西山嘉寛氏が行い、岡山県における少花粉品種の種子生産について採種園等の整備の状況や今後の展望等が解説されました。



西山嘉寛氏の講演

原寛一氏から「会社員から自営業へ、野菜との複合経営」というタイトルで、労務の確保を念頭においての野菜の栽培時期と育苗管理時期の作物選定での調整等について報告が行われました。

次に、全国の苗木生産者が一堂に会したことを一層有意義なものとし、関係方面に広くアピールしていくために、生産者の集いの決議文を採択することになり、原案を長畑州三岡山県山林種苗協同組合副理事長が読み上げ、満場一致で採択されました。([別添2])

続いて、次期開催地の愛媛県への引き継ぎが行われ、全苗連旗が難波理事長から成瀬要三愛媛県山林種苗農業協同組合代表理事組合長へしっかりと手渡されました。

最後に、全苗連富澤修一副会長より閉会のことばがあり、第4回全苗連生産者の集いは盛会裏に終了しました。

また、同日午後6時から、沢山のご来賓にも出席していただき、「ANAクラウンズホテル岡山」において情報交換会が和やかにそして温かに開催されました。

第4回 全苗連生産者の集い



村松二郎全国森林組合連合会会長の祝辞

続いて美作市檜原上の野澤正人氏から「新規参入4年目の報告」と題してコンテナ苗に特化した新規参入のことや得苗率並びに労働力の平準化などの課題について報告があり、勝田郡奈義町の長畑健三氏からは「後継者としての苗木生産」と題して従来の裸苗の生産から緑化樹等の生産、コンテナ苗の生産の経緯や機械化、省力化への取組、少花粉品種の生産についても報告がなされました。最後に真庭市台金屋の豆



難波芳英岡山県苗組理事長の挨拶

【全苗連生産者の集い・視察旅行(岡山県内)】 (翌日の9月7日に実施)

翌日は、晴れの国おかやまの歴史、景観等に触れ合うべく岡山・倉敷・児島方面と蒜山方面への視察旅行が行われ、岡山への理解が一層深まる一日となりました。



現地視察の様子

[別添 1]

☆ 平成 29 年度 全国山林苗畑品評会表彰☆

農林水産大臣賞 注1;順不同 注2:*コンテナ苗(以下同)

北海道 有限会社 リョクハン

福島 佐藤 孫一 *

茨城 鈴木 守 *

岡山 小林 由隆

高知 岡宗 信明 *

大分 高村 忠

林野庁長官賞

北海道 高田 拓実

岩手 大森 茂男

岩手 菅野 日夫

宮城 今井 裕一 *

宮城 齋藤 貴之 *

秋田 社会福祉法人 花輪ふくし会 *

秋田 大庭 幸夫

茨城 大森 頼正

栃木 鈴木 栄 *

栃木 高山 文雄 *

三重	鵜飼 薫
和歌山	川口 源治
和歌山	坂上 秀信 *
岡山	野澤 正人 *
広島	近藤 幸恵
徳島	下川 勝巧 *
福岡	佐藤 和正
宮崎	高野 晋治

☆ 平成 30 年度 山林種苗等生産事業功労者表彰☆

林野庁長官賞

岩手	横田 幸介
栃木	石川 政道
群馬	松下 好
長野	笹岡 洋一
和歌山	田端 宏
鳥取	森下 真一
岡山	多賀 正実
愛媛	成瀬 隆俊
大分	井上 伸史

全苗連会長賞

北海道	篠島 広吉
岩手	菅野 弘之
秋田	渡部 操
長野	平沢 和正
静岡	植松 瑞馬
和歌山	坂上 秀信
高知	山崎 純平

☆ 永年勤続常勤役職員等表彰☆

北海道 館 信彰

北海道 仲野 良弘

静岡 山内 恵

[別添2]

全苗連生産者の集い決議

第4回全苗連生産者の集い決議文

我々、全苗連の苗木生産者は、山林種苗の需給関係が、昭和40年代初頭をピークに右肩下がり減少が続くという厳しい経営環境下で、また、過疎や生産者の高齢化が進展する中山間地にあつて、苗木生産を続け、安定供給への大きな使命を果たしてきた。

我が国の森林林業を取り巻く状況は、木材等の生産活動を通じて森林の有する多面的機能の維持発揮に寄与する一方で、木材価格の下落等の厳しい状況が続いてきた。

一方、戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、これらの森林資源を循環利用し、「林業の成長産業化」を実現するために、「新たな森林管理システム」の下で、意欲と能力のある経営体に森林の経営・管理を集積・集約化することとし、路網整備・機械導入を重点実施するほか、主伐・再造林の一貫作業、川下との連携による木材の安定供給の推進、非住宅分野等でのJAS無垢材やCLTの利用拡大など、川上から川下までが連携した取組を総合的に推進することとしている。

そのような中で、今後本格化する主伐後の再造林を確実にを行うためには、優良な苗木の安定供給が不可欠となっている。

このような状況を踏まえ、我々、全苗連の苗木生産者は、これまでの経験・実績・技術に基づき、品質の保証された優れた苗木の安定供給に大きな使命を担っているところであり、行政機関による苗木需要量の見通しや需給調整機能の充実、苗木の予約生産・販売体制の構築と苗木生産施設の整備や苗木生産の元となる種子・穂木の安定供給体制の確立及び調和のとれた苗木生産者組織の育成強化について国のさらなる支援を求めるとともに、後継者育成に務め、かつ、育苗技術等の向上を目指していく所存である。

我々、全苗連の苗木生産者は、本日ここに次の事項の実現について強く要望する。

- 一 主伐後の再造林等に必要な森林整備費の安定的財源確保
- 一 苗木需給量の見通し及び需給調整機能強化並びに苗木の予約生産・販売流通体制の構築

- 一 苗木生産の元となる種子・穂木の安定供給体制の確立
- 一 コンテナ苗生産に適した品種や優良品種の開発並びに生産技術の開発推進
- 一 調和のとれた苗木生産者組織の育成強化
- 一 後継者育成の支援

平成30年9月6日

全国山林種苗協同組合連合会

【収入保険制度の案内】 (自然災害だけではなく、 価格低下や残苗の発生なども含めた収入減少をサポート)

収入保険が平成31年1月からスタートしますが、この制度に山林種苗生産者も該当することになりましたので概要をお知らせします。

保険の対象は、自然災害だけではなく、価格低下や残苗の発生なども含めたものとなり収入減少をサポートするものです。

収入保険の実施主体は、全国農業共済組合連合会となっています。制度の内容を一言で表現すると「種苗生産者ごとに、保険期間の収入が基準収入の9割を下回った場合に、下回った額の9割を補てんする制度」ということとなります。

「掛け捨ての保険方式」と「掛け捨てとまらない積立方式」の組合せで補填する仕組みとなっています。収入保険制度には国庫補助があり、保険料には50%、積立金には75%、事務費には50%の国庫補助が行われます。また、保険料率(掛金率)は、1.08%(50%の国庫補助後)です。なお、翌年の保険料率は、自動車保険と同様に、保険金の受取実績に応じて変動します。

対象者には、農業経営者のほかに、山林種苗生産者も含まれることになりました。重要な条件があります。それは青色申告を行っている者のみに限定されていることです。ただし、加入申請時に青色申告実績が一年分あれば加入できますので、現在、白色申告を行っている方でも早期に加入できます。また、白色申告を行っている方でも、青色申告には「簡易な方式」があり、容易に取り組みます。

収入保険の概要につきましては全苗連HPの「会員向けページ」をご覧ください。また、相談窓口が都道府県農業共済組合連合会に設けられましたので補償内容など詳しいことはお問い合わせください。

全苗連・苗組の行事予定

～H31. 3 ①コンテナ苗生産未経験者を対象とした研修会の実施 ②コンテナ苗生産に新規参入後、間もない事業者を対象とした研修会の実施 ③コンテナ苗生産経験者を対象とした巡回指導の実施 ④造林者等を対象としたコンテナ苗の植栽に関する研修会の実施 ⑤その他研修会の実施等 ⑥種苗の需給情報等を共有する取組 実施者;全苗連、都道府県苗組

10月3日 元全苗連会長武部勤氏旭日大綬章受章祝賀会(明治記念館)

10月11日 全苗連・福島県農林種苗農業協同組合共催次世代山林種苗生産圃場現地検討会(福島県南相馬～12日 市)

10月30日 中国地区種苗需給調整協議会(山口市)
～31日

11月7日 日本造林協会理事会及び林政懇談会(コープビル)

11月8日 全国林業経営推奨行事賞状伝達贈呈式(公益社団法人大日本山林会)(石垣記念ホール)

11月9日 東海・北陸地区林業用種苗及び緑化木需給調整協議会(静岡県庁西館)

11月13日 全苗連関東地区協議会(栃木県庁北別館)

11月14日 茨城森林管理署・全苗連共催森林育成現地検討会(茨城県日立市山部山国国有林)

11月15日 近畿地区林業用種苗需給調整協議会(滋賀県)

11月21日 九州地区林業用種苗需給調整協議会(大分県)

11月22日 九州苗連協議会総会(大分県)

11月29日 東北・北海道地区林業用種苗需給調整協議会(新潟市 朱鷺メッセ)

12月6日 全苗連・宮城県農林種苗農業協同組合共催コンテナ苗生産現地検討会(宮城県蔵王町)
～7日

12月13日 四国地区林業用種苗需給調整協議会(愛媛県松山市)
～14日

1月7日 林業団体新年賀詞交換会(三会堂ビル「石垣ホール」)